

21.1.31

高知新聞

(27)

高知大からJ指導陣へ

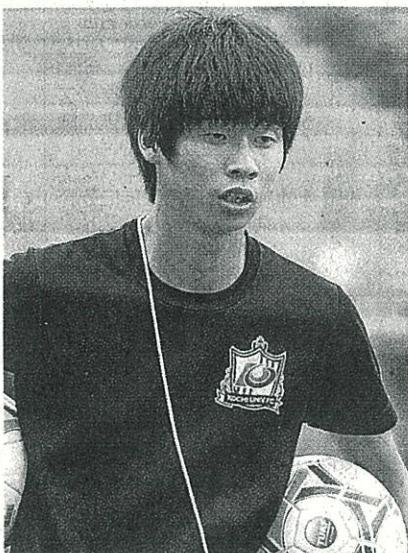
清家さん→鳥取、竹本さん→愛媛

今春、高知大学を卒業するサッカーチームの4年生2人が、コーチや分析官としてJクラブのトップチームの指導陣に加わる。同大学の部員が、選手経験や若い世代の指導者を経ずに直接、トップチームの指導に携わるのは初めて。同部では近年、学生コーチが中心となって対戦相手の分析をしたり、対策を考えたりする機会が増えしており、部員たちの進路に新たな可能性が加わった形。2人は「チームの戦力になれるように必死で頑張る」と意気込んでいる。

Jクラブに入るのは清家芳樹さん(22)と竹本登也さん(21)。清家さんはJ3ガイナーレ鳥取のアシスタントコーチ兼分析担当、竹本さんはJ2愛媛FCの分析担当として、すでにチームに合流している。

分析担当は、映像などでもアシスで対戦相手の戦術、特長を分析して分かりやすくの設計を任せられた。進路味方に伝える。自チームの弱点についても解析し、改善の手助けをする役職。近年、J2、3でろばかりですけど、毎日

サッカーチーム 進路に新たな可能性



が新しい、勉強になって遂げられると思える場所」と声を弾ませる。

には、すさまじい成長を一方、竹本さんはこの

引き締める。

高知大は近年、富武敢司監督の「将来的に指導者になりたい」という目標を持つ部員に経験を積ませたい」という意向もあつて、Aチーム以外は学生コーチが監督を務めるなど、部員に大きな役割を任せている。

「年明けの全国大会出場もJリーグの優勝も、2人の力があったからこそ」と富武監督。今回のJ入りの意味を「学生コーチの経験を生かしてJクラブのスタッフ入りができることはある意味で最高の形。後輩たちの目標の幅が広がつたと思う」と話す。高知大サッカー部が、これまでとはまた違った輝きを放ち始めている。(井上真二)

1年間、Aチームでヘッドコーチを務め、全国大会出場を懸けた四国大学トーナメント優勝に貢献した。Jクラブも含めてサッカー関連の進路を探す中で、知り合いの縁もあって愛媛FC入りが決まりた。「結果を出すしかない世界。来年も居られる保証はないですからね。わくわくより、緊張感の方が大きい」と笑を

1年間、Aチームでヘッドコーチを務め、全国大会出場を懸けた四国大学トーナメント優勝に貢献した。Jクラブも含めてサッカー関連の進路を探す中で、知り合いの縁もあって愛媛FC入りが決まりた。「結果を出すしかない世界。来年も居られる保証はないですからね。わくわくより、緊張感の方が大きい」と笑を引き締める。